

は、次年度から常勤医師2名体制は既定路線と捉えていいか。

- ③ 万が一、常勤2名体制が実現しなかった場合、その後の対応をどう考えているか。
- ④ 新築早々の空き家状態の医師住宅だが、仮に来年度常勤医師2名になるとして、それまでの間どのような扱いにするのか

診療所の人工透析導入について

昨年の9月定例会議一般質問において、本町の人工透析導入の必要性を訴えた。

患者は年々年を重ねており、佐世保まで通院する体力がなくなれば移住せざるを得ず、高齢患者救済のためにも一刻も早い導入が必要と考える。

また、観光に力を入れている本町であるからこそ、観光や帰省を望む患者の期待にも応えるべきではないかと考え、以下4点を質問する。

- ① 昨年の9月定例会議において、本町の人工透析導入について次年度の国への要望書に盛り込みたいとの町長の答弁があったが、その考えに変わりはないか。
- ② 佐世保まで2日に一度の通院は、特に高齢者には高いハードルとなっており、通院する体力がなくなれば移住を余儀なくされるが、この現実をどう思うか。
- ③ 昨年の答弁では2床2クール、1日4名受け入れて透析室看護師が5名必要とのことであったが、2床1クール、1日2名受け入れであれば、透析室看護師は2、3名いれば足りるように思うがどう考えるか。
- ④ 観光に尽力している沖縄県では、島民だけでなく透析が必要な観光客の受け入れもしている。本町とは人口も観光客も桁違いではあるが、観光に力を入れている本町も倣うべきと考えるがどうか

町 長

橋本 武士	<p>令和6年度の政策について</p> <p>町長は定例3月会議の施政方針において、施策の柱として、「子どもの教育の充実と子育て支援」、「農業・漁業・商工観光業の振興と後継者対策」、「医師・看護師の確保による医療の充実」、「移住・定住・交流による人口減少対策」、「デジタル社会を目指した環境整備の促進」、の5本柱とそれに沿った主要事業を述べていたが、その中で最も重要と捉えている政策と、その政策により見込まれる効果について町長の考えを伺う。</p>	町 長
今田 光弘	<p>町が譲り受けた旧小西邸と旧津田耕平商店倉庫について</p> <p>町は佐世保西消防署の出張所建設用地として利用し、さらにクランク状の道路線形の改善を図ろうと旧小西邸を譲り受けた。</p> <p>しかし建物を解体しようとしたところ、文化庁の強い指導を受けて修復して保存することになり、当初の土地利用計画とはまったく違った方向に進んでいる。</p> <p>一方、旧津田耕平商店倉庫は尼忠東店利用者のための駐輪場などとして利用するために町が譲り受け、解体撤去はしたものの土地の利用は進んでいない。</p> <p>建物がある土地を利用する計画がある場合、移転補償契約を結び、建物所有者が解体撤去して更地の状態にしてから所有権を移転するのが一般的だ。</p> <p>① 重要文化的景観区域内という認識はあったのか。</p> <p>② 「更地にしてから」という一般的な所有権移転の形をとらなかったのはなぜか。</p> <p>③ 今後旧小西邸はどのように修復し、何に活用するのか。</p> <p>④ 修復にかかる費用と、今後の維持管理費を含めた費用対効果はどうなのか。</p> <p>⑤ 旧津田耕平商店倉庫跡地が利用できないのはなぜか。</p> <p>⑥ 土地利用計画のために町が買収または寄附を受ける場合は更地に限ることをルール化すべきではないか。</p>	町 長

立石 光助	<p>一般質問の進捗状況について</p> <p>前回までの定例会議で質問した、以下の 3 点について、現在の進捗状況と今後の具体的な計画について伺います。</p> <p>① 台風に強い農業の推進：塩害に強い作物の導入検討、施設の強靱化などの状況について伺います。また、養蚕業復活の可能性についても検討状況を伺います。</p> <p>② 防風林の整備：防風林の整備計画や、沖縄県のような民間主体の活動支援など、具体的な取り組みについて伺います。</p> <p>③ 半農半 X の推進：農業と他産業の組み合わせによるリスク分散の具体策、特に民泊や農業体験との連携などについて、検討状況を伺います。これらの施策は、住民の安全確保と農業の持続可能性、ひいては小値賀町の未来にとって重要です。前向きな検討をお願いします。</p>	町 長
	<p>ごみ置き場の扉について</p> <p>ごみ置き場の扉について、重くて開閉作業が大変なのでどうかしてほしいとの住民の声が以前からあがっています。各ごみ置き場を現地調査したところ、ごく一部ではすでに軽量のものへ交換済みでした。別のある地区では、要望として役場に伝えているにも関わらず、未だに交換されていないのでどうかしてほしい、と相談を受けました。当町が抱える様々な課題の中では小さな課題で優先度も低い、と思われがちかも知れません。ただ、日々の暮らしの中で数日に一度必ず行う扉の開閉作業を、子どもから高齢者まで幅広い世代の住民が、簡単かつ安全に行えるようになることで、ごみ捨てと という家事を担うことができる家族が増え、親の負担が軽減されたり、高齢の方がごみ捨てのたびに感じる「暮らしにくさ」が解消されたり、扉で手や体を挟まれるなどの怪我を予防したり、住民福祉の向上が期待できるものと考えます。これまで改善の要望がありながら、どうして一部の地区だけしか改善されていないのか、また今後改善する予定はあるのか、予定があればどのように改善する予定なのか伺います。</p>	町 長

	<p>コミュニティナースの導入検討について</p> <p>少子高齢化が進む本町では、医療・介護の担い手不足が深刻化し、住民の健康不安が増大しています。コミュニティナースは、住民の身近な存在として、健康相談や生活支援など、きめ細やかなサービスを提供することができ、介護・医療制度にあてはまらない範囲をケアすることができます。看護師・保健師・介護師が全国的に不足する中で、コミュニティナース導入により期待される効果は、主に以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">① 住民の健康意識向上と生活習慣病予防② 医療・介護サービスの利用促進と重症化予防③ 医療・介護関係者との連携強化による地域包括ケアシステムの構築④ 看護師の資格は持っているが夜勤等が困難な人が活躍できるコミュニティナース導入は、住民の生活の質向上と地域医療・介護の充実につながると確信していますが町長の考えを伺います。	町 長
--	--	-----